

# シルバー須高

第60号

(公社)須高広域シルバー人材センター  
会報編集委員会

## 暑中お見舞い申し上げます



国指定名勝 米子大瀑布群 (観光ガイド班がご案内)

### 主な内容

- P 2 平成30年度定時総会
- P 3 平成29年度事業報告
- P 4 平成30年度事業計画
- P 5 平成32年度目標会員数
- P 6 安全就業への取り組み

- P 6 会員の声・老いを元気で楽しく
- P 7 須坂市福祉会館情報  
公開講座・新鮮野菜販売中  
会員応援事業所紹介コーナー
- P 8 会員募集・シルバー業務のご案内

# 「平成30年度 定時総会」

## 盛大に開催される

5月29日須坂市文化会館メセナホールにおいて、多数の会員の出席のもと定時総会が盛大に開催されました。

島田理事長のあいさつの後、多年にわたり理事あるいは会員としてシルバー事業の推進、発展に貢献した皆様への表彰状等の贈呈が行われ、来賓の方々からは、シルバーへの期待と励ましのご祝辞をいただきました。

引き続き、議事に入り、議長に



定時総会 (平成30年5月29日)

須坂市・旭ヶ丘A班の塚田周一さんが選出され、「平成29年度事業報告・収入支出決算」並びに「平成30年度事業計画・収入支出予算」等が原案のとおり承認されたほか、目標会員数の策定等についての報告が行われました。

また、アトラクシオンは、みつば会童謡唱歌を歌う会による「汽

車」にちなんだ懐かしい歌や長野県歌「信濃の国」などの発表が行われ、会場に明るい歌声が響きました。最後に各市町村の企業、応援事業所の



みつば会童謡唱歌を歌う会の皆さん

素晴らしい商品50本を特賞として大抽選会が行われ、楽しいひと時が過ぎました。

# 平成29年度事業報告

- 「空き家等の適正管理に関する協定」を結ぶ
- 「会員応援事業」スタート

公益社団法人として、地域社会への貢献、そして、地域に開かれたシルバー人材センターを目指した取り組みを進めました。

特に、平成29年度は新規事業として、市町村が抱えている課題（空き家・空き地・荒廃農地・墓など）の適正な管理）に取り組みにあたり、地域就業機会創出・拡大事業コーディネーターを配置し、須高3市町村と協定を結び、新た

な就業機会の創出・拡大に努めるとともに、ふるさと応援寄附金の返礼品にも「空き家の見回りサービス」と「お墓の管理サービス」を登録するなど、須高地区における地域づくりのお手伝いを行いました。

空き家等の管理（草刈り、草取り、植木剪定など）の依頼件数は、須坂市が207件、小布施町が42件、高山村が19件の計268件

でありました。また、独自事業を通じた就業機会の拡大にも努めたほか、会員の福利厚生、退会の抑制などを目的に会員応援事業（須高地域内の事業所が会員及びその家族を対象に割引サービスや特典を提供する事業）をスタート、26事業所に登録いただきました。

## 会員の拡大、就業機会の拡大

初めてポスターを制作

当センターを知っていた、たくため、須坂市・小布施町・高山村の各市町村と連携するとともに、オリジナルポスターや空き家等の業務に関するチラシを制作したほか、入会の迅速な承認、会員ひとり1会員拡大、会員ひとり1事業開拓、理事による事業所訪問などを行い、当センターの認知度の向上、就業機会の拡大等に努めた結果、

### ●市町村別会員登録状況等

(平成30年3月31日現在)

	須坂市	小布施町	高山村	合計
男	346人	28人	67人	441人
女	187人	32人	14人	233人
合計	533人	60人	81人	674人

新規の入会者は、公益法人となつた平成23年度以降で最も多い93人が入会となりました。退会者は、平成23年度以降でみますと2番目に少ない79人で、前年度に比べ15人少ないといった状況でありました。3月末現在の会員数は674人、前年度と比較し14人の増となりました。

これは、広報など新たな事業の取り組みなどにより、入会者が増え、退会が抑制されたものと思います。

請負・委任事業の収入は3億1300万4000円で、前年度とほぼ同額となりました。また、派遣事業の契約額は1500万2000円となり、収入等の合計は3億2800万6000円で前年度をわずかに下回りました。

## 安全就業

### 就業前安全ミーティング実施

完全就業は「全てに優先する基本」でありますので、安全ニュースの発行、安全パトロールの実施、安全就業推進大会の開催などのほか、平成29年度は、草刈り班、剪定班、草取り班に救急箱を配付しました。

また、事故の未然防止に向け、軽トラック4台にドライブレコー

ダーを設置、チェックシートを使っての就業前安全ミーティングの実施などのほか、安全就業対策委員会において、発生した事故の現場検証を行い分析と対策を協議し、会員への周知と徹底、指導に努め、一層の安全意識の高揚を図りました。

## 地域に開かれた

### シルバー人材センター事業

シルバー交流農園運営委員会が中心となり、高橋農園で「じゃがいも、ねぎなどの野菜」の栽培、村山農園では、信州の伝統野菜である「村山早生ごぼう、沼目越瓜、八町きゅうり」を栽培、販売したほか、イベント等でも順調な販売となりました。

## 世代間交流事業

子育て支援センターを利用する親子や東部保育園の園児と高橋農園で「じゃがいも収穫」などで交流、更に「七夕飾り」などでも交流、日野地域児童クラブの児童とは「折り紙」などの昔遊びを行ったほか、新たに高山村子育て支援

センターの親子とサツマイモの植え付け、収穫交流を行ったことから、前年度より2回多い9回の交流を行い、会員102人、親子130組、園児を含む児童は124人の皆さんに参加いただきました。



高山村子育て支援センターの親子との交流

## 地域間交流事業

高山地区で高山村老人クラブ連合会と「マレットゴルフ大会」を共同で実施し、交流を図りました。

## 講習会事業

会員を対象にした講習会のほか一般公開での講習会を実施しました。

なお、料理講習会は、地元野菜を使った料理の作り方を学んだほか、公開講座「野菜の育て方」をシリーズ化し、村山農園を活用しての実践講座を実施しました。

## センターの発展に尽力した役員及び会員を表彰しました

表彰基準に基づき、5月29日の定時総会において、理事長から表彰状と記念品を授与しました。

※敬称略、順不同

### ◎役員への表彰状贈呈

理事として5年以上在任し退任した者

近藤 たつ子 (須坂市八幡町)  
利根川 清次 (須坂市高橋町)

### ◎会員への表彰状贈呈

多年(20年以上)会員として当センターの事業の推進、発展に寄与した会員

越 眞沙子 (須坂市旭ヶ丘町)  
越 陽 (須坂市北旭ヶ丘町)  
監物 好枝 (須坂市南原町)

## 理事の選任

若林治郎理事の辞任に伴い、新たに小布施B班(横町)の波田野哲夫会員が理事に選任されました。

# 平成30年度事業計画

- 会員700人を目指して
- 安全就業基準を守って事故防止(安全就業は全てに優先する)
- 「ポイント制度」平成31年1月スタート

急速に進む少子高齢化の中、高齢者の多様な社会参加の受け皿として、シルバー事業の重要性とシルバー人材センターに向けられる地域社会の期待は一層大きなものになっていきます。

社会の担い手として、「自主・自立、共働・共助」のシルバー理念のもと、会員の拡大が最重要課題となっており、本年度は700人を目標に取り組みます。

また、地域のニーズに対応した事業の推進として、引き続き「地域農業活性化事業(農園事業)」や「地域就業機会創出・拡大事業(空き家・空き地・荒廃農地・墓地などの適正な管理)」など、市町村が抱えている課題に取り組みます。

また、「安全就業は全てに優先する」事項ですので、危険ゼロを目指し、安全ニュースの発行、安

全パトロールの実施、安全就業推進大会の開催のほか、事故の未然防止に向け、チェックシートを使つての就業前安全ミーティングの実施など、一層の安全意識の高揚を図るため取り組んでまいります。

## ● 組織活動等の充実

会員拡大に向け、センター事業の普及啓発をしながら、地域班、会員の口コミによる「会員ひとり1会員拡大」活動を推進、入会の迅速な承認を行うとともに、本所ワークプラザ・小布施事務所・高山事務所を活用し、会員の交流、会員の居場所づくりのほか、信頼されるシルバーとして、就業マナーの一層の向上、就業に関する知識、技能の向上を図るため、各種研修・講習会を実施します。

また、会員全体でシルバー人材センターを盛り上げていくため、定時総会への出席、会員や仕事の拡大、研修会や地域活動への参加などにポイントを付与する事業として「ポイント制度」を平成31年1月から実施します。

## ● 就業開拓の推進

役職員による事業所訪問や街頭啓発活動を実施し、就業機会の拡大に努めるとともに、独自事業の推進などに努めます。

## ● 安全・適正就業の推進

「安全は全てに優先する」をモットーに、安全ニュースの発行、新たに携帯用安全手帳の発行、安全就業推進大会、各種研修、講習会の開催などを通じ、安全就業基準の遵守と安全就業ミーティングの実施、健康チェックの実施など日々の活動を徹底し、会員の安全就業意識の高揚に努めます。

また、安全就業対策委員会を中心に理事及び委員による就業現場の安全パトロールを実施し、安全指導・助言を行うほか、事故現場の検証と事故防止対策などを行い、

安全・適正就業の推進に努めます。

## ● 普及啓発活動の推進

地域の方にシルバー事業を知っていただくことが大切ですので、各種の媒体を通じ情報発信に努めます。

また、ホームページのリニューアルを行います。

## ● 地域に開かれたシルバー人材センター事業の推進

構成市町村との連携・協働により、地域の方々が参加できる各種事業の企画と実施に努めます。

## ● 会員の健康管理と福利厚生

シルバー人材センターへの「入会の促進、退会の抑制」も兼ね、会員及びその家族を対象に割引サービスや特典を提供する事業「会員応援事業」への登録事業所の拡大に努めます。

## ● 財政基盤の強化等

事務処理の効率化、経費の節減、個人情報の適正管理などに努めます。

全シ協が「第2次会員100万人達成計画」を策定

平成32年度目標会員数 760人

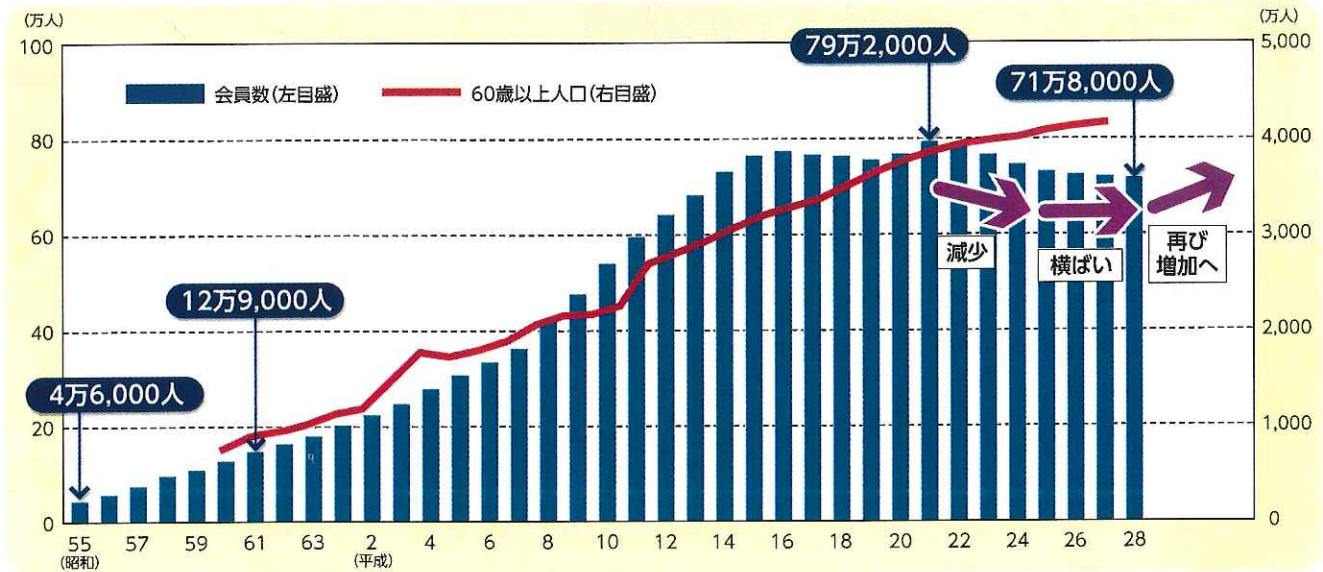
シルバー人材センターの第1号は昭和50年に東京都江戸川区で設立されました。それ以来40年を超えて発展を続け、いまや全国のあらゆるところで事業を展開するところまでになりました。全国の会員数等の状況は、グラフのとおり昭和55年に4万6000人、「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」が施行された昭和61年に12万9000人と年々増加しましたが、65歳までの雇用義務化などもあつて、平成21年度の79万2000人(須高SC 754人)をピークに減少に転じ、平成28年度は71万8000人(須高SC 660人)となつていきます。

全国シルバー人材センター事業協会は、本年3月の理事会において、第2次会員100万人達成計画を策定、平成36年度会員100万人を目指して、

●年度別目標会員数

年度	目標会員数(人)
平成30年度	700
平成31年度	730
平成32年度	760
平成33年度	800
平成34年度	850
平成35年度	900
平成36年度	950

●全国の会員数等の状況



(注)「60歳以上人口」は、センターが管轄する市区町村人口中の60歳以上人口で、昭和60年度から集計

各センターでの「平成30年度から平成36年度までの目標会員数の策定」を依頼、この依頼に基づき、本年度の目標会員数を700人に、中間年度である平成32年度760人に、平成36年度950人とする当センターの目標会員数を策定しました。

なお、平成33年度以降の目標会員数については、第三次中期(5か年)計画の終了年度である平成32年度の達成状況を見極め、次期計画にあわせ見直しを行います。

会員拡大の取り組みは、職員や役員の方だけで出来るものではありません。会員も一体となつて取り組むことが重要です。

第三次中期(5か年)計画を見直す

目標会員数の策定に伴い、平成27年度に策定した第三次中期(5か年)計画中の平成32年度目標会員数を「800人」から「760人」に見直しました。

# 安全就業への取り組み

安全就業対策委員長 長岡 正幸

常日頃から、『安全はすべてに優先する』をスローガンに進めておりますが、平成30年度の4月から6月までの事故発生件数は5件(昨年3件)、内容は刈払機によるものが3件、駐車場で会員同士の事故など車両事故が2件となっております。現在は、昨年を大きく上回り、このままで推移しますと、事故件数が過去最多の事態となる恐れがあります。今年度は、新たに理事による安全パトロールを加え、前年度の8回から12回にしました。また、これまでの7月の強化月間に加えて5月・6月も安全就業強化月として、のぼり旗を作成、各事務所に設置するとともに安全推進員の腕章を班長に配付、着用をいただいています。

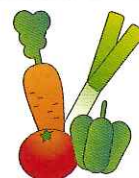
また、6月には北信4センター合同の危険予知訓練が実施されました。安全推進員として予知訓練と就業前ミーティングが定着すれば、就業場所に多大な安全効果を与えられると思います。

そして、『決められた事は必ず守る』を会員皆さんが実行していただければ、事故は必ず減少させる事ができます。全員で頑張り、地域の皆さんに親しまれるシルバー人材センターを目指します。



安全パトロール

## 会員の声



### 老いを元気で楽しく

豊洲班 吉池 武

暑さ厳しいある年の夏、冷房の部屋でゴロゴロしながらテレビを見る日が続いた。気づくと膝は痛い腰は回らずとすっかり体力の衰えに驚き気力までも失いかけた。

スポーツクラブか水泳教室かなどと迷っているうちに年が明け、お屠蘇を飲みながらお正月を楽しんでいた時、配布されたシルバー須高元旦号が目にとまった。体を動かす様々な仕事や家庭菜園の参考になる農業講座等の開催、孫との遊びに役立ちそうな子ども達との交流会など多くの活動を知り、気力・体力の回復にはこれだと思いい2月の説明会に参加、その年の4月から会員になった。

今年で3回目の夏を迎えたが、農家が丹精込めたブルーベリーやキノコの共撰作業で体力の増強、信州の伝統野菜である八町きゅうり・沼目越瓜・村山早生ごぼうなどの農作業で素晴らしい仲間も出来、気合を入れて身体を動かすことで、いつの間にか膝の痛みや足腰も快復し、更に子ども達との交流で学んだ遊びで子育ての昔を思い起こしつつ孫とのふれあいも上手く、老いを元気で楽しんでる。マイペースで頑張ろう。



村山農園での伝統野菜の手入れ

## 須坂市福祉会館情報

公益社団法人須高広域シルバー人材センターが指定管理者として須坂市福祉会館の管理運営を行っています。

- 福祉会館図書室を「どこでも図書館」に登録  
1500冊の本たちが、皆様のご利用をお待ちしております。

信州須坂「どこでも図書館」とは・・・  
須坂市文化振興ビジョンに基づき、須坂市内の店舗や施設に、市民所有の図書や市立須坂図書館が提供する図書を配置して、全市をフィールドとした読書活動の推進と、まちの活性化を図るものです。



- AED（自動体外式除細動器）が6月1日設置されました。



### 公開講座

#### (信州の伝統野菜を使った料理講習会)

日時 9月28日(金) 10時～12時  
場所 須坂市女性未来館（須坂市中央公民館）  
講師 郷土食ブランド作りグループの皆さん  
定員 25名（定員になり次第締め切り）  
参加費 500円  
持ち物 エプロン 三角巾 筆記用具  
※申し込み先 須高広域シルバー人材センター

### 新鮮野菜販売中

シルバー農園で栽培した野菜や会員が栽培した野菜などを須坂市福祉会館の玄関にて販売しています。

（収穫時期などがあり品数が少ない時もあります。）



## 会員応援事業所 紹介コーナー

須高広域シルバー人材センターの会員及びその家族に割引サービスや特典を提供する会員応援事業所として、須高地域内26の事業所が登録いただいています。

＜ 応援事業所募集中!! ＞

可変と不変の心 伝統ある鋸の匠

### 源 有限会社 丸源鋸工場

〒382-0087 須坂市東横町 1426

TEL.026-245-0675 FAX.026-245-5589

大正11年創業以来96年手引き鋸を専門に主に剪定鋸を製造しています。創業当時の『お客様本位』の考え方を大切に、お客様の利益のため変えるべきところは変え、変えてはいけないところは変えない『可変不変の心』で鋸を作り続けています。

丸源の安価な替刃鋸は誰が使ってもよく切れます。その秘密は……



プロ仕様の圧倒的切れ味!



硬度アップ!



耐久性アップ!



オガクズの出方に注目!

だから、剪定鋸長野県シェアNo.1 本体 3,197円～

《シルバー会員特典》鋸のみ 10%引き

### 入会説明会(各事務所)

(原則毎月第3水曜日)

13:30~(2時間位)

8月22日 (第4水曜に変更)

9月12日 (須坂本所のみ)

9月19日

10月17日

11月21日

12月19日

1月16日

# 会 員 募 集

## 公益社団法人 須高広域シルバー人材センター

〒382-0076 長野県須坂市馬場町1218番地(須坂市福祉会館内)

TEL:026-246-2003(代)

FAX:026-246-2579 メール:sukou@sjc.ne.jp URL http://www.sjc.ne.jp/sukou/  
小布施事務所(老人福祉センター桃源荘内) 開所日:月・水・金曜日 8:30~12:00

高山事務所(保健福祉総合センター内) 開所日:火・木・金曜日 13:00~17:00

◆ 須高地区に在住している60歳以上で、趣旨に賛同いただける方

◆ 入会説明を受け、入会申込書を提出した方

◆ 定められた会費の納入をいただける方 (年会費3,000円)

※ 1か月一人当たり平均30,000円位の配分金を得ております。(29年度実績)

### 請負・委任事業



宛名書き・賞状書き



皿洗い・給食作業・賄・配膳



施設管理



刃物とき(包丁・かま・なた)



植木剪定・消毒  
障子・襖の貼り替え



福祉・家事援助



屋内外の簡単な作業



草取り・草刈り・農作業

その他の仕事についてもセンターへご相談ください

### シルバー派遣事業

これまでの請負や委任による働き方だけでは対応できなかった「発注者の従業員との混在作業」や「指揮命令を受ける作業」など、多様な働き方が可能となりました。是非ご利用を検討ください。

### 表紙の写真



よなごだいぼくふ  
米子大瀑布

根子岳と四阿山を源流に静寂な谷に並び  
落ちる80m級の2つの滝は日本の滝百選に  
選定される名瀑

久しぶりに会った知人から、「シルバーの会員になって働いている姉がいるが、もう年なんだから働きに出なくてもいいのにな」と聞きました。今、会員を増やそうと取り組んでいる私たちは、これはきちんと皆さんに、理解を深めてもらおうよう、お伝えしていかなければいけないなと思いました。働くだけが目的ではなく、コミュニティの場であり、ボランティア活動を通して、生き甲斐を実感できる場であることを、知らせていきたいと思いました。いつまでも元気で和をもって、楽しい人生を過ごせたらと思います。この度もお忙しい中、貴重な原稿をお寄せいただいた皆様に感謝いたします。(宮崎さと子)

## 編集後記